

都の造営にとりかかって二年がすぎ、ようやく橿原宮が完成に近づいた。イワレビコには即位前 realistically 実施せねばならないことがいくつもあった。

その一つは、ヤマト王家の一系化だ。イワレビコは、海人の母系社会に生まれ育ったせいか自分の血統にはこだわらず、ヤマト族の和を重視して自分の一族を九州に下向させ、大倭族の罪も問わなかった。そしてイワレビコは、大倭一族をヤマトに引きとりヤマトと大倭を一系とし、両家が二度と争うことのないようにした。その上で開化の皇子・ミマキイリヒコイエを皇太子に迎え、神功の皇子を次の皇太子と定めた。ニギハヤヒに対しても、物部氏の名で分家を認め重臣として仕えさせた。こうして、三朝に分裂していた王家は再び一系となり団結した。イワレビコの兄の御毛沼は日向の高千穂に帰って三田村と名をかえ、イワレビコの長男は阿蘇神宮宮司の職についたと言われている。大倭につながる椎根津彦(国津神)は、東征を勝利に導いた功により、鹿家となっていた大倭の家名を継いだ。天皇を輩出した天津神であるはずの大倭が、「令義解」に国津神と記されているのはこのためだ。

二つめは、八咫鏡をかざした倭王が二度と現れないようにすることだった。そのために、垂仁・景行が倭王の瑞としていた天照御魂神の鏡(天照国照彦火明命)の外周を欠き除き、鏡作郷の鏡作(坐天照御魂)神社に、御神体として祀らせた。

三つめとして、イワレビコは、ニギに三種神器を与えた大御神(和御魂)を天神と仰いでいたから、自分の手で大御神の立派な御陵を築かねばならなかった。邪馬台が築いた大御神(荒御魂)の御陵をそのまましておくことは、邪馬台勢を黙認しその再起を許すことにもつながる。そこでイワレビコは、この御陵の方形部を延長して倭トモソノ姫の墓とし、新たな天照大御神陵として、鳥見山に日向型前方後円墳を築いた。卑弥呼の墓も、鏡作神社の鏡と同じ運命をたどった。卑弥呼の墓が日本全国どこにもないのはこのような経緯があるからだ。

四つめは、伊勢の大御神の祭祀をヤマト式に変えることで、これもイワレビコの重要な仕事だった。そこで天照大御神の和御魂が正殿に祀られ、荒御魂はその一角の荒祭宮に遷された。倭姫が大御神を祀るという邪馬台の祭祀は、排除された。

これらはいずれも、天照大御神の和御魂をヤマトの先祖として祀り、倭王が再び並び立たないようにする改革だった。

三〇一年、イワレビコ即位式の当日となった。日臣命は、久米の兵を率いて宮殿を護り、ニギハヤヒ一族は矛・盾を揃え、天宮命は齋部を率いて天津瑞の鏡・剣を捧げて正殿に納め祝詞を奏上した。こうした中で、イワレビコは倭王(天皇)として即位し後に神武天皇と呼ばれる。この時から大和朝廷が始まった。

まもなく、鳥見山山中に巨大な前方後円墳の斎場が完成した。天宮命が皇天・国津神を祀って祝詞を奏上し、猿女君が神楽を舞う中、神武は感謝の気持を述べられた。

「我が皇祖の神々は、天より降り賜うて私の身体を照らし助けて下さった。いま諸々のアタたちを平定し国内は平穏に治まっている。そこで、天照大御神を天神として祀り大孝の志を告げ、お礼を申しあげたい」

そして、タカミムスビも、あわせて祀った。鳥見山山鏡には、四世紀はじめの巨大な前方後円墳・桜井茶臼山古墳が、三輪山に向かい鎮座している。日向に多い柄鏡形をしたこの古墳には、樹齢千年以上の巨木で造った木棺が安置され、三角縁神獸鏡など十数面分の銅鏡片・勾玉・鉄剣の三種神器、王権を示す玉杖・玉葉が副葬されていた。



桜井茶白山古墳

【桜井茶白山古墳】(奈良県桜井市)

全長二〇七メートルの柄鏡式前方後円墳で鳥見山の尾根上にある。竪穴石室の全面に朱が塗られ、その中に巨木のツガで造った木棺が納められていた。副葬品の多くは盗掘されていたが、それでも多数の銅鏡片、玉杖、玉葉、硬玉製勾玉、ガラス小玉、鉄剣片、鉄ヤジリ、ヤリガンナが残されていた。銅鏡の復元から三角縁神獸鏡六、内行花文鏡三など二〇面近い鏡が確認されている。天王日月銘の鏡は、椿井大塚山古墳(京都府)、赤塚古墳(大分県)にもある。柄鏡形古墳は、日向の西都原古墳群に多い。

この古墳は、倭王級副葬品が豊富にあるにもかかわらず、その被葬者の名は伝わっておらず、古代史上限りない謎を秘めている。この古墳北から香久山北部にかけての地は古くは磐余いわほと呼ばれ、イワレビコの大軍が駐留したと言われ、イワレビコと同名の地だ(『日本書紀』はイワレビコを、磐余彦と記す)。神功皇后もこの地に若桜宮をおき、履中、清寧、継体、敏達、用命の各天皇も磐余に都を定めた。飛鳥に都がおかれるまで、この磐余の地は、京都の聖地とされてきた。

倭国統一に全力を注いだイワレビコは、ほどなく崩御したのか、それとも崇神に王位を譲ったのか定かでない。国家統一を成し遂げた英雄の残りの生涯は意外と短かつたかも知れない。周の武帝は二年、漢の高祖は六年だ。

磐余には、大きな謎を秘めた巨大な柄鏡形の前方後円墳がもう一つある。それは、被葬者の名もわからないメスリ山古墳だ。この古墳も盗掘されて副葬品が少ないが、それでも三角縁神獸鏡片、内行花文鏡片、ヤリガンナ、玉杖片、鉄製の弓矢、多量の鉄ヤリなどがあつた。この古墳は東西を向いて築かれ、その真西に橿原宮があり東に伊勢神宮がある。

これまでの物語を振り返って考えると、劣勢なヤマトが三輪氏を滅ぼし得たのは、イワレビコという希有な指導者に恵まれたことに加え、天照大御神の権威であつた前方後円墳と三角縁神獸鏡の魔力も大きかつたに違いない。

以上で、この物語は完結するが、邪馬台時代の始まりは足利尊氏が幕府を開き北朝を建てた南北朝時代と酷似している。二世紀末、ヤマトの混乱に乗じ、三輪氏はヤマトに反旗を翻し天下奪取に成功して、ヤマトと同名の邪馬台・倭国を名のり、それぞれに傀儡王朝を建て大物主大神として最高権力をふるつた。このため南九州と畿内に三朝が並立した。三輪幕府と東西王朝とも呼ばばいいのだろうか。

つぎに神武東征は、薩長による討幕戦争と瓜二つの歴史だ。幕府に積年の恨みを持つ薩摩と長州は、